

星に願いを

気候危機時代における
アジアの子どもたちの
希望と要求

#GenerationHope
#RedAlertonClimate





もしあなたが、子どもたちが
住む地球を救うために何かひ
とつできるとしたら、それは
何でしょうか？

この本について

「星に願いを (Wish Upon A Star)」は、9才から17才のアジアの子どもたちが気候の緊急事態について語った短いストーリー、メッセージ、アートワークを集めたものです。この電子書籍は、アジア太平洋地域の子どもと若者が主導し、セーブ・ザ・チルドレンが支援するレッドアラート・キャンペーン・ネットワークによって制作されました。この電子書籍は、タマラ・アマリアが制作し、シャヒーン・チュタイとマドウ・カルラが編集しました。

レッドアラート・ネットワークは、著者とアーティストの貢献に加え、このプロセスを円滑に進めてくれたバングラデシュ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、ベトナムのセーブ・ザ・チルドレンチームに対し、謝意を表したいと思います。

なお、*印のついた年齢は、作品制作時の年齢です。

© Save the Children International 2022

本書は、出典を明らかにすることを条件に、権利擁護、キャンペーン、メディア、番組制作、研究などの目的に無償で使用することができます。

序文

リディマ・パンディ、14才
レッドアラート国際運営委員会委員長



気候変動が全世界にとって最大の危機であることは、誰もが知っていることです。人間だけでなく、他のすべての生物種に影響を及ぼします。最もひどいことは、この危機によって最も責任のない人たちが最も影響を受けていることです。人間の活動と温室効果ガスの排出がこの危機の根本的な原因であり、時間とともに悪化しているのです。世界のリーダーや民間企業は責任を負うべき存在ですが、その変革は遅々として進んでいません。悲しいことに、彼らは利益を優先するあまり、次の世代の未来と生態系の隅々まで破壊してしまうかもしれません。

若者や将来の世代が結果を負うことになるのです。若い世代である私たちは、誰かが変化を起こしてくれるのを待つのではなく、自分たちが見たい世界のために変化を起こし、自分たちのために声を上げなければなりません。若い世代が力を合わせ、気候変動に関するキャンペーンに一丸となって力を注げば、その力を発揮することができることを目の当たりにしてきました。また、リーダーたちは、私たちの将来に影響する決定を下す際に、私たちのアイデアや提案、懸念事項を考慮する必要があります。

声を上げ続けましょう！
リディマ・パンディ ウッタラカンド州、インド

私たちは若いのです。
でも、一人の人間であり、市民です。
私たちには意見を聴かれる権利があり、
安全で健康な未来を手に入れる権利があります。

シャ・ヴィガー、13才、
レッドアラート国際運営委員会副会



"きれいな海と環境にやさしい船"

アート：ユジョン・ナム、11才*、韓国





もう黄金の国ではない ディヤ、16才、バングラデシュ

“私のような人に、声を上げ、行動し、話を聴かれる機会を与えるべきです”

私は、とても小さな国、バングラデシュの出身です。でも、私にとっては黄金の国です。

子どもの頃、先生が「私たちの国には6つの季節があり、それぞれの季節に表情があります。これほど多様性のある国は、世界でもそうそうないでしょう」と教えてくれました。それを聞いて、私は驚き、自分の国をとて誇らしく思いました。しかし今、私は、気候が変化する中でこのような季節を保つことができなくなり、この誇りを失うことになることを実感しています。

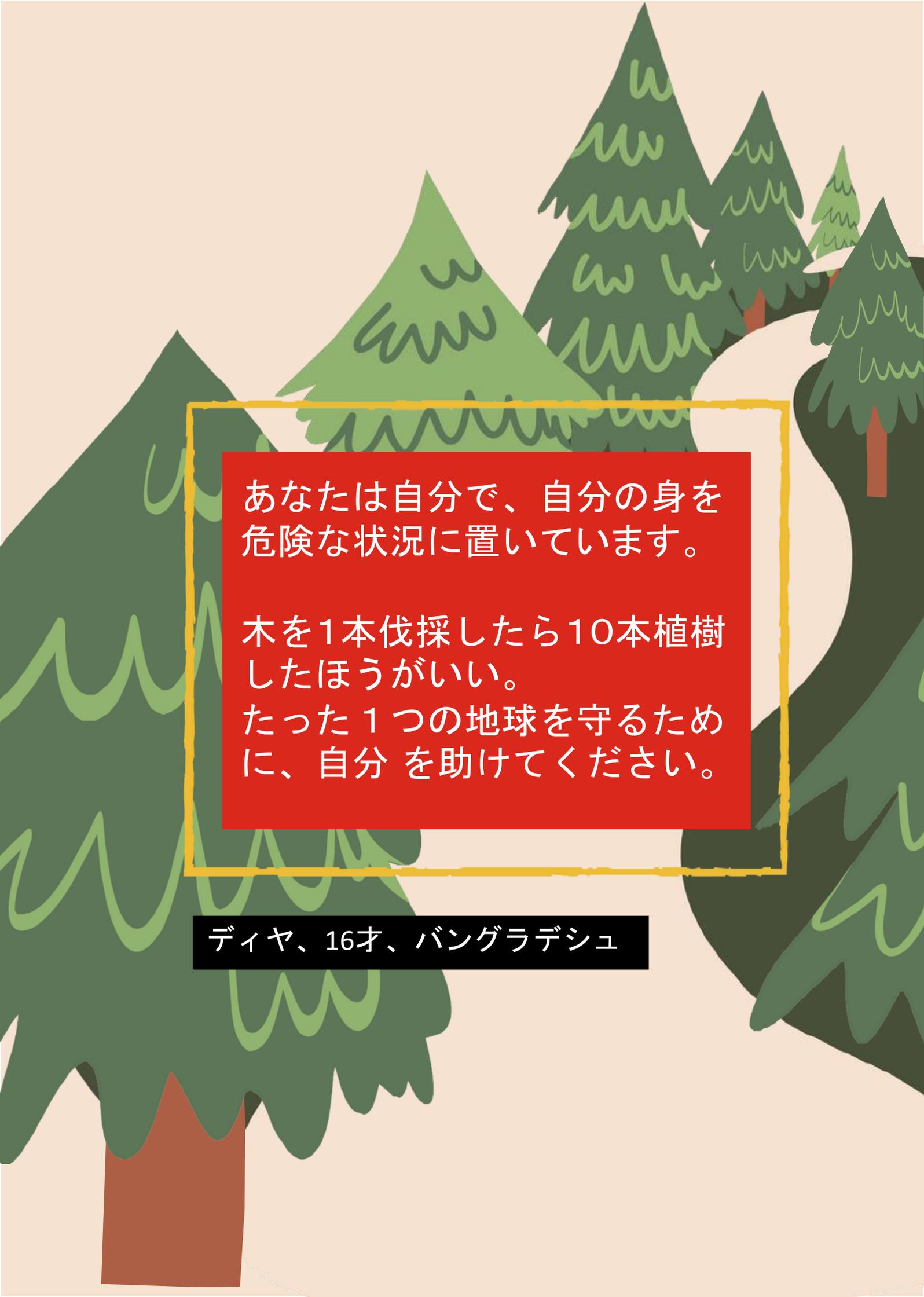
日に日に、私の祖国はその美しさを失いつつあります。1988年の大洪水では、何千もの家屋が壊れ、無数の家畜が流され、人の命が失われました。私の母もその洪水で家を失いました。母は中流家庭の出身で、洪水がすべてを奪い去りました。母とその家族は生まれ故郷を離れ、首都に来るしかありませんでした。

私の祖父は重病になりました。人々の生活の中で戦争が始まったようなものでした。慣れない街で生きていくのはとても大変なことでした。飢えや、まともな住む場所が見つからないこともありました。祖父は数日後に亡くなり、母は家族で一番若かったのにもかかわらず、子どもながらに9才で働き始めました。母には運が悪かったとしか思えませんでした。しかし、2009年5月、サイクロン「アイラ」が沿岸部を襲い、190人が死亡、4千万人近くが被災しました。私は恐怖を感じ、被災した人たちのためにアッラーに祈りました。

その地域に住む私の親戚の多くは、この気候災害で大きな被害を受けました。数年前、私のいとこの夫が大雨のために作物の生産が大幅に減ったのを目にしました。彼らは今、借金と職に就けないことによって、子どもたちと最悪の生活を送っています。私は、親や親戚、地域の人たちのこのような話をたくさん目の当たりにしてきました。12才のとき、学校のグリーンクラブに参加し、このような災害はすべて気候変動が原因であることを学びました。この経験は、私にとって考え行動するきっかけとなり、地球と人の命を守るために何かしたいと思うようになりました。

私たちの声に耳を傾け、気候変動の緊急事態を理解してくれる世界のリーダーたちに届くよう、もっと自分の声を主張したいです。バングラデシュは気候変動の深刻なリスクにさらされています。友人と私はその解決策を考えてきましたが、残念ながら、私たちの声にきちんと耳を傾けてくれる人は誰もいません。

私のような多くの人に、声を上げ、行動し、話を聴いてもらう機会を与えるべきです。10代である私たちは、ただただ子どもの権利の実現に対して義務を負う大人たちに助けを求めようとするしかできません。大人たち、リーダーたちをお願いしたいのは、私たちの声に耳を傾けてほしいということです。私たちの未来を確かなものにし、美しい世界をつかってほしいです。



あなたは自分で、自分の身を
危険な状況に置いています。

木を1本伐採したら10本植樹
したほうがいい。
たった1つの地球を守るため
に、自分を助けてください。

ディヤ、16才、バングラデシュ

以前と同じではない

ヒマニ、16才、ネパール

3年前に新型コロナウイルス感染症を体験したとき、 現在そして将来も人間が生きていくために

自然のバランスを保ち、守ることの大切さを実感しました。気候変動を知らない人たちに、気候変動を説明する最も簡単な方法は、私たちの住む場所の気温がどのように変化し、新型コロナウイルス感染症のような新しい病気がどのように生まれているかを話すことです。

この数年、私は自分の住む地域の変化を目の当たりにしてきました。以前は、この地域はきれいで、天候は予測できました。今は、いつ雨が降るのかがわかりません。例えば、ネパールでは8月は雨の月です。以前は雨が降れば、苗を植えた田んぼに十分な水が行き渡り、たくさん収穫できました。しかし、ここ数年、雨の降り方が変わってきています。今年は雨が降らず、田んぼが乾いているのです。

これがお米の生産に影響し、ここの人々の日々の暮らしに影響を与えています。生産量が少ないと、家族は仕事や収入を得るために近隣の国へ移住しなければならないかもしれません。

大きな決断は政府によってなされますが、子どもたちは小さなことから始められると思います。自分たちの家庭や学校から始めればいいのです。学校で気候変動について勉強している子どもたちが、その知識を実践に生かせるような働きかけが必要です。

もし私がリーダーなら、グリーンエコノミーと持続可能な生活を推進することを最優先に考え、すべての子どもたちのために気候変動教育に投資します。

“子どもたちは未来であり、環境に真
の変化をもたらすことができます。”





地球温暖化

アート：ユリーシャ・バジュラチャリヤ、
17才*、ネパール

私は絵を通して、大気汚染が環境に与える影響を人々に知ってもらい、二酸化炭素排出量を減らすことで地球を救うことを他の人にもすすめたいです。

今の世界

アート：アナム・ナディーム、15才*、パキスタン





ともに生きる

アート：宮原 万結子、15才*、日本

私の夢は非現実的なのでしょうか？

ラーミ、17才、インドネシア

“高潮が起こるたびに、
家族の生活が
不安定になります”



2018年の津波と地震、そしてインドネシアの 中央スラウェシ島の海岸に毎年押し寄せる

高潮の洪水で、私の家は壊されました。2年間の避難生活を経て、漁師の父と私、そして私の家族は、現在新しい家に住んでいますが、海岸から500メートル以上離れており、十数年間隣り合っていた近所の人たちや友人たちとは離れ離れになっています。高潮による洪水は、私たちにさまざまな影響を与えました。経済（生活）がどんどん不安定になっていきます。高潮が起こるたびに、私の家族の生活が不安定になります。

私の夢は、親が誇れるような教員になり、成功することです。多くの人が私たちを見下すので、私は家族の尊厳を高めたいのです。しかし、特に父は以前のように頻繁に海へ行けなくなり、今は学費を払う余裕がないので、私は迷っています。何しろ、私の家は海から遠いのです。また、弟や妹の教育も心配です。お金がないので、彼らは学校に通うことができなくなるでしょう。

現在は、以前学校で学んだ知識をさらに深めながら、奨学金制度を利用して進学することを考えています。また、他の子どもたちと一緒に、再び高潮が起こったときに、人々の家がプラスチックごみで汚染されるのを防ぐために、海岸のプラスチックごみを掃除するアクションを起こしました。そして、海の波や浸食に耐えられるマングローブの木を植え、囲うという運動にも参加しました。



集落の分断

ジャハラ・タスフィア・レザ
14才*、バングラデシュ

“私の絵では、気候変動の影響を描いています。
バングラデシュでは、気候変動による2つの大きな自然災害である、河岸侵食と鉄砲水の影響により、美しい村が引きさかれています。”



どんな行動も小さくない

イーシャ、17才、パキスタン

私が初めて気候変動危機に情熱を傾けたのは、15才のときでした。

環境マネジメントの先生が、パキスタンの環境について、簡単に講義してくれたのがきっかけでした。その言葉はシンプルでありながら力強く、私を奮い立たせました。その日以来、私は環境危機に関するドキュメンタリーを見るようになり、環境破壊を食い止めるために現在行われていることに満足できない気持ちになりました。そこで私は、自分の住むコミュニティや次の世代に少しでも貢献できるよう、この活動にエネルギーと時間を使うことにしました。

パキスタンに住む私たちは、今、気候変動の影響を受けています。気候変動が進行した結果、パキスタンの気候は過去数十年の間にますます不安定になり、この傾向は今後も続くと予想されています。洪水、気温の上昇、干ばつ、異常気象に加え、ヒマラヤ山脈の氷河が解けることにより、パキスタンの最も重要な河川の多くが脅かされています。

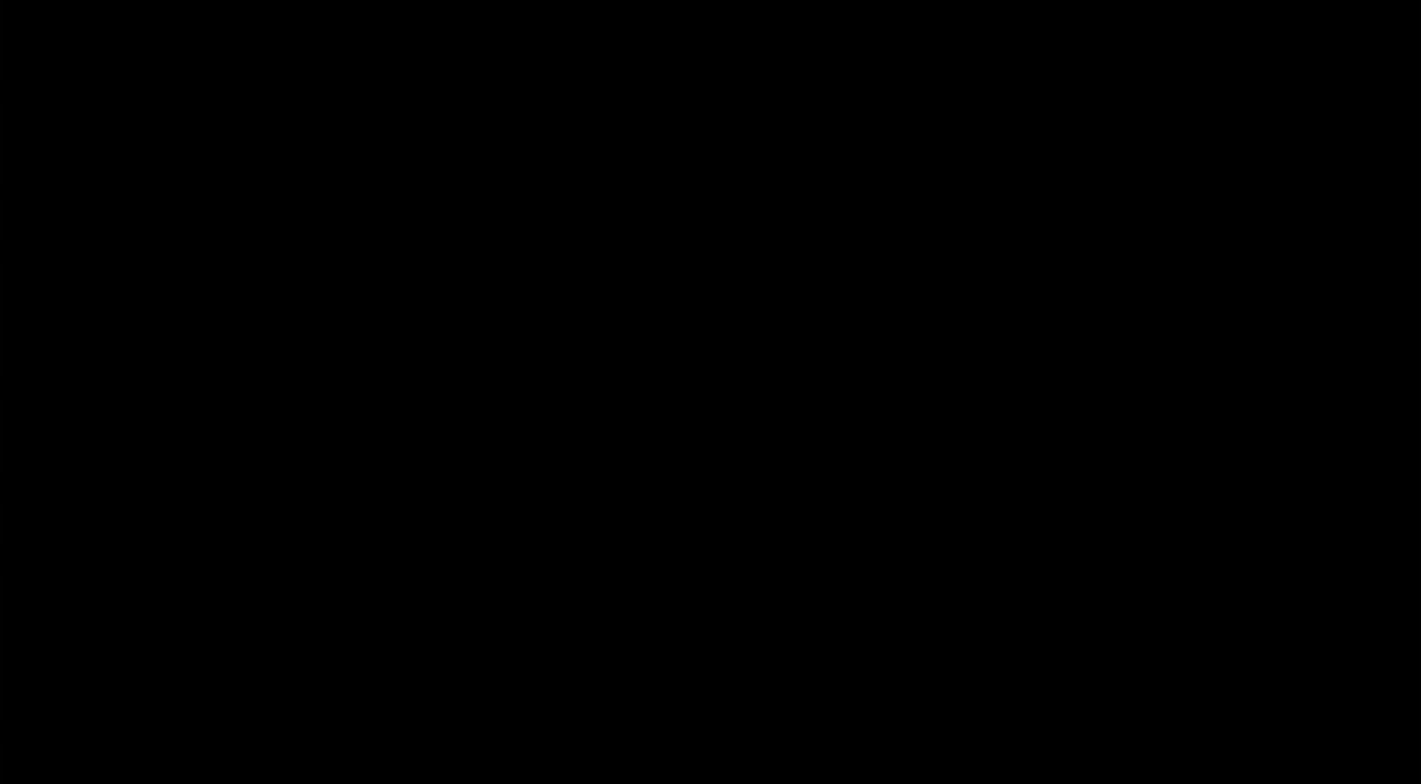
気候の危機は、野生生物や生物多様性を失わせ、予測できない天候の変化や海面・気温の上昇を起こし、海洋を酸性化させ、病気を広げます。またあらゆる社会経済活動に悪影響を及ぼすなど、私たちの未来と地球の未来に影響を与えます。特に乳幼児や就学前の子どもたちは、水を通じて病気や呼吸器系の病気にかかるなど、最も影響を受けやすい立場にあります。パキスタンの気候変動は、私のような若者の社会的、精神的、教育的側面に影響を及ぼしています。政府や世界のリーダーたちは皆、変化をもたらすことができる立場にあります。世界のリーダーたちから、この問題を解決するんだという強い意志が必要だとしたら、それは今なのです。大人も子どももお年寄りも、一人一人が自分の意見を表明する権利を持っています。あなたの小さな行動、小さな努力に価値があるのです。

だから、みんなと未来の世代のために、緑豊かでグリーンな環境づくりに賛成しましょう。



“グリーンな環境づくりに賛成しましょう”

アート、フオン・タオ
9才、ベトナム



“GO GREEN!”

ラップ曲：ムーサ（16）、シャヒード（17）
ハルーン（17）、アワイド（15）、パキスタン

正しい決定を

ウィエン・ニー、10才、ベトナム

私がよく歌う歌です

「この星は私たちのもの 青い風船が空を飛ぶ...」

目を閉じると、緑に覆われた大地が広い空に浮かんでいるのが見えます。私はここで、故郷の新鮮な野菜、甘い果物、貴重なお米を食べて生まれ育ち、満月をいつも楽しみ、友人たちと一緒に学校に行き、たくさんの素晴らしいことを学ぶことができます。

学校で学んだことは、私たちの魔法のような地球、美しい故郷、そして満月などのすべてが、私や親、知人、友人たち自身の手によって脅かされていることを理解する助けになりました。そして、その脅威はすでに私たちの目の前まで来ているのです。

この前の洪水では、土砂崩れによって、私たちの国では、人々の愛する息子、父親、夫、兄弟の命が奪われました。苦しまなければならない家族の、押しつぶされそうな痛みが伝わってきます。洪水に次ぐ洪水、嵐に次ぐ嵐が私の故郷にやってきます。村はばらばらになり、水の海に溺れました。

“土砂崩れは、人々の愛する息子、父親、夫、兄弟の命を奪いました。”

木が折れ、電柱が倒れ、家は屋根を失いました。普段の生活は止まり、生徒たちは何日も学校に行くことができませんでした。2021年3月、降り続く豪雨と季節外れの洪水は、私の故郷の花が咲いた田んぼをすべて台無しにしました。豊作を約束された田んぼは、一晩の豪雨で流されました。家の周りの畑には何も残っていませんでした。親や周りの人たちの叫びが、私の胸に深く突き刺さりました。「ニー、何とかしてくれ、お前とほかの人たちが緑の地球を汚しているんだ!」

今すぐ行動しなければならぬのです! それ以来、私はもう風船で遊ぶことはありません。ノートはプラスチックのラップではなく新聞紙で包み、友だちにも同じようにしています。母には、市場に買い物に行くときはビニール袋を使わず、かごや箱を使って運ぶように言っています。父が畑でミミズを捕まえるのを手伝い、こう言いました。「お父さん、野菜のために農薬を使うのはやめようね!」そして、祖母が家の周りのゴミを集めるのを手伝っています。

一生懸命やっても、村の道路にはゴミが散乱し、側溝には死んだ鳥がいて、空気中には農薬の臭いが漂っています。だからこそ、もっと多くの人が協力する必要があるのです。

まだ生活環境を守ることを怠っている人たちに、子どもたちの声が届くといいなと思います。子どもたちと一緒に、環境のために行動していきましょう!



“私たちの森を守る”

アート：ファム・テー・ミン、11才、
ベトナム

“森を守ることは、私たちの健康を守ること。
一緒に緑豊かでクリーンな地球を守りましょう。”



私たちはすでに気候変動の影響を感じています。熱波はより多く、より長く発生し、四季も消えてしまうかもしれません。気候の変化は、地域によってより強く、より頻繁に起こるようになるでしょう。

人が地球に住んでいるからこそ、気候変動による問題は人に返ってきます。

問題を起こして、その代償をもらっているようなものです。

-セヨン、17才、韓国



みどり豊かな世界を望んでいます

ジョイ、10才、ラオス

気候変動は、私や私の家族、そしてコミュニティに直接影響を及ぼします。

数ヶ月前、洪水で家の中のものが水没してしまいました。食料はすべて水に浸かって腐っていました。家の電気機器は水没していて、命にかかわるようなけがをすることがあるので、さわらないようにとの注意喚起がありました。私は死ぬのが怖くて、震え上がりました。

父は、自分の家でこのような激しい洪水に見舞われたのは初めてだ、と言っていました。父は私に、お金を稼ぐために木をたくさん切り、土地を切り開いた結果だと言っていました。学校の先生も、今年は洪水のせいで農家の収穫が少なくなるだろうと言っていました。

将来は、世界のどこを旅しても、植物の芽生えや緑地がたくさん見られるような、きれいでみどり豊かな世の中にしたいです。

“将来は、世界のどこを旅しても、植物の芽生えや緑地がたくさん見られるような、きれいでみどり豊かな世の中にしたいです。”



みんな地球の子どもです。

すべて

“すべての生き物に愛を”

アート：大西 伯奈、12才*、日本

想像できずか
彼らのいない
地球を

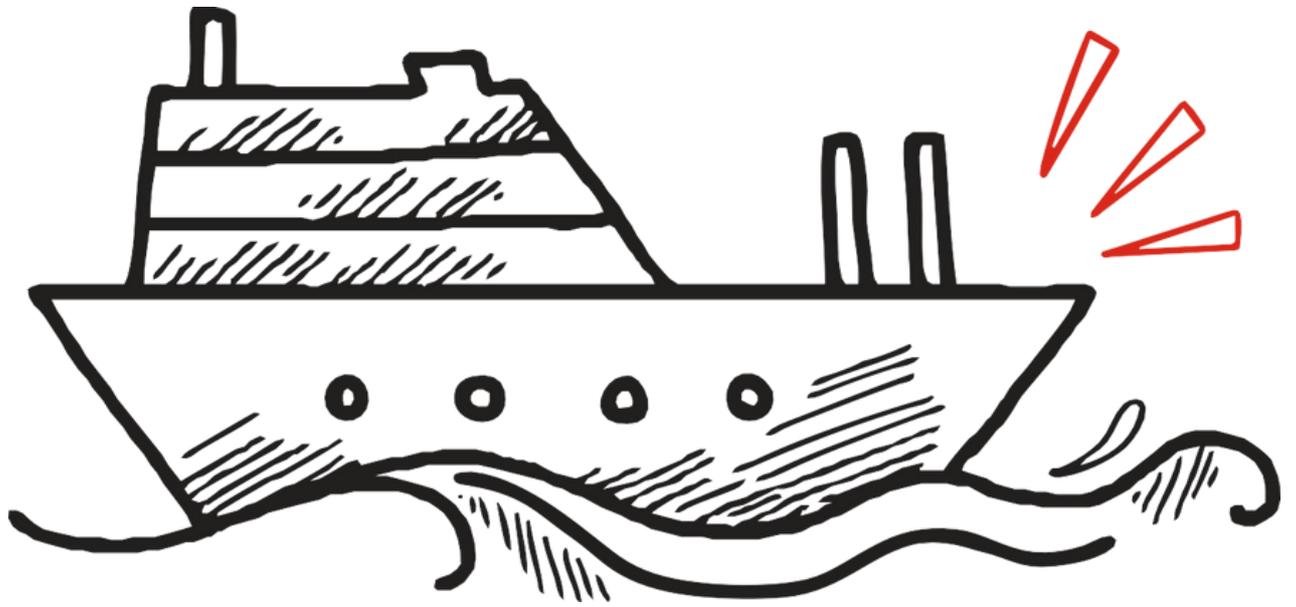
密猟反対

これ
汚



生き物に愛を





トンレサップ湖周辺の美しく、 すべての人々を包み込むような暮らし

ラタナ、12才、カンボジア

“大人は私たちの声に耳を傾けるべき”

私の名前はヘン・ラタナ、12才です。
私は本を読むことと、きれいな環境が好きです。

学校へはボートで通っていて、1時間近くかけてこいで行きます。友だちと一緒にボートをこぐときは、おとぎ話、勉強、成績の話をします。私にとって、教育は非常に重要であり、教育さえ受けることができれば何でもできるのです。学校では、汚染された水、森林伐採、廃棄物について学びました。また、環境に配慮する方法を学び、湖でゴミを集めました。健康的な雰囲気は、私を幸せにしてくれます。

この文章を書いている、カンボジアのトンレサップ湖という湖を思い出しました。湖の周りには鳥が飛び交い、水の中には美しい魚たちが住み、多くの人がそこで漁をして生活していました。空に雲がかかり、風が吹き、さわやかな気候でした。各家の下には竹が浮いていました。みどり豊かな木々もあります。

しかし、今は水が汚れ、環境は破壊されています。工場からたくさんのゴミが排出され、そのゴミが環境を悪化させ、水を汚しているのです。汚れた水を使うと、病気になります。嵐や大雨、強い風が頻繁に起こるようになりました。家同士がぶつかり合い、ガラクタが飛び交っています。私は本当に悲しく、怖いです。

私を含め、多くの子どもたちが環境を守ることが必要だという意識を高めています。環境を守るためにできることは何でもします。大人たちは、私たちの声に耳を傾けてほしいです。

一人で地球を救うことができますか？

カンボジアの17才の少女スレイランは、気候や自然の緊急事態に対応するための取り組みに参加しています。

2022年7月、スレイランは「Let's Plant 2022」プロジェクトに参加し、カンボジアのカンポット州で2,000本のマングローブの植林に協力しました。



なぜ共同の取り組みが必要なのか

カウスタフ、14才、インド

“今すぐ行動しなければ、手遅れになる”

私は両親と弟妹と一緒に暮らしています。

私の出身地は、毎年モンスーンの時期になると洪水に見舞われる州で、今年も起こりました。

貧困は私の人生最大の課題の1つであり続け、自然の猛威（もうい）はそれをさらに悪化させました。2017年と2020年、私の近所は洪水に見舞われました。今年は、モンスーンの前にも洪水が発生しました。モンスーン前の雨で州内は大混乱となり、茶畑などの農作物が大規模に破壊され、財政状態が悪化しました。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる挫折からまだ立ち直ることができていません。私の住む地域では、気候変動の影響について議論されることはありませんし、意識されているかどうかもわかりませんが、ここ数年で目にしている異常気象は、気候変動と関係があると感じています。

頻繁に起こる洪水は子どもたちに大きな影響を与え、州が洪水から回復する間、私たちの学校は長期間閉鎖されたままです。こうした災害は親の生活に影響を与え、既にある不平等を深め、子どもたちは有害な労働や早婚の危険にさらされます。私は地元の青年団の代表を務めています。私たちは、レジリエンス（回復力）を高めるための活動に取り組んでいます。毎年起こる洪水が表土を侵食（しんしょく）し、農地が不毛になるのを友人と見てきました。そこで、表土の侵食を食い止めるために、河川敷で植林活動を行いました。また、友人やコミュニティの人たちに、誕生日などの記念日に贈り物をする代わりに、苗木を支えるように働きかけています。このような活動が実を結びました！パンチャヤット村の村長が、村人に私たちの活動に続くようにと呼びかけをしてくれているのです。

植林活動とは別に、私たちは村とその周辺を定期的に清掃し、周囲を清潔に保ち、プラスチックがない状態にするための活動も行っています。また、買い物には手作りのバッグを使い、裏庭の菜園では有機肥料を使い、人工肥料の代わりに害虫用のコンポストを使うなど、地元で手に入る資源を取り入れることも推進しています。

気候危機に率先して取り組む「気候チャンピオン」たちは、地区、ブロック、パンチャヤット（村）、そしてコミュニティの各レベルで常にこの問題を提起しています。地球温暖化を止めるためには市民による運動を作り出すことが重要です。私は、子どもたち、大学生、教員、その他の積極的なステークホルダーを巻き込み、気候危機への対応に必要な弾みをつけたいと考えています。

今、行動を起こさなければ、手遅れになるのです。



美しい結末

アート：ムハマド・アフキーン、15才*、
アフガニスタン難民



どう感じますか？

ガイド、12才、スリランカ

**この夏のフットボールキャンプの時のことが、
今でも頭の中に浮かんできます。**

思い出すだけで、また喉が渇いてきます。気温42℃の中でプレーするのは、まったく楽しくなかったです。体から出る汗で、溶けそうでした。

とても暑かったので、常に水分補給をしなければなりませんでした。両親は、私が来年のキャンプに参加しないことを決定しました。私はサッカーがとても好きですが、スリランカにはあまりサッカーができる場所はないので、悲しいです。

サッカーの後、愛犬のユカと散歩に行きたかったのですが、あまりにも暑かったので、連れ出すことができませんでした。午前10時から午後7時までは家の中にいなければならず、屋外での活動は一切できませんでした。私が住み、学校に通っているスリランカでは、再び水不足に慣れる必要がありました。この3年間、毎日水が出るわけではありません。シャワーを長く浴びているとタンクが空っぽになり、洗濯機で洗濯ができなくなります。

しかし、1年のうちにはモンスーンと呼ばれる雨が多すぎる月もあります。モンスーンの雨は、より激しく、より長く続くようになりました。今では道路が水浸しになり、私も1年間学校に行けなかったのを覚えています。私の学校では300~400人ほどの生徒と、ほとんどの教員が家に閉じこもっていました。すべての子どもは学校に行く権利があるのですから、これは許されることではありません。そこで、オンラインに移行することになったのですが、停電があったため、オンライン学習の接続を維持するのは難しいことでした。2年間の新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生活の後、私はまた学校に行きスポーツをしたいのですが、気候危機のせいで難しく、自分の将来が心配です。

自分が子どもだったらどう感じますか？



**“この3年間、
毎日水を手に入れ
ることができ
ませんでした”**

気候変動を防ぐために自然を守る



アート：シャック ティークシャナ
ディアス 12才*、スリランカ

“人の活動が直接的に気候変動を引き起こしています。この絵では、地球の割れ目、森林伐採、干ばつ、異常気象などで、母なる自然が悲しんでいるのがわかると思います。私が伝えたいのは、人と自然の間には強い結びつきがあるということです。人は自然や環境に優しくなければなりません。燃料の代わりにグリーンエネルギーを使わなければなりません。私たちが自然を守れば、今度は私たちが自然に守られるのです。”



気候変動の 変化の中にある 子ども

ジハード、17才、
フィリピン

“地球を救うとは、 子どもを救うということ”

私たちは気候変動に最も責任がないと思います。

でも、最も影響を受けているのは私たちです。

気候は変化しており、私たちも変化すべきなのです。

セーブ・ザ・チルドレン・フィリピンが支援するレッドアラート・キャンペーンの一環として、私は仲間や家族、コミュニティに対して気候変動に関する啓発を行い、清掃活動やリサイクル、植樹などの環境活動に取り組んでいます。

私は政府に対し、災害前、災害時、災害後の子どもたちや最も弱い立場にある人々を保護するため、「子どものための包括的緊急プログラム（CEPC）」のような法律を実施するよう求めます。そして、再生可能なエネルギー源を利用するためのプロジェクトに資金を提供してください。農業国として、食料安全保障と災害へのレジリエンスに関する取り組みを優先してほしいです。

私の世代はまだ、食料や清潔な水などの必需品が誰でも手に入る、よりみどり豊かで安全な世界に住み、体験することができると思っています。家族はこれ以上災害で家や生活を失う恐怖に怯えることなく暮らすことができ、きれいな空気を吸って長生きすることができます。

地球を救うとは、子どもたちを救うということなのです。



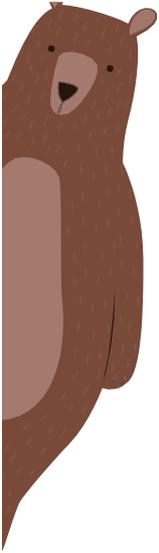


洪水が起きたときに

アート：サヒーダ、15才*、
ロヒンギャ難民

“気候の変化により、最近は洪水が多くなっています。私たちは無力さを感じています。水位が上昇すると、人々は小屋の屋根に上がらなければならないこともあります。そのような厳しい状況下では、ボート以外の交通手段はなく、それも非常に危険なのです。”





雨乞い

トラン・ジア・バオ（11）
トラン・ティエン・ディン（10）
グエン・ゴック・ジアウ（10）
グエン・ビン・カン（10）
グエン・タオ・ニュ（10）
チュオン・ジア・トオン（9）



ベトナムの童話をモチーフに、ベトナム・カマウ省、
トランバントーイ 郡の小学校の子どもたちが創作した短編劇です。

ある夏の日、地球はとても暑く、日差しが強く照らしています。真水が不足し、海水がいたるところを覆っており、干ばつは1ヶ月続いています。木は枯れ、川や湖は干上がり、すべての生物は飲み水を失ってしまいました。誰も自分自身とすべての生き物を救う方法が思いつきません。ヒキガエルは天国へ行って雨を降らせてもらえるように頼むことを提案しますが、みんなには賛成してもらえませんでした。そこで、ヒキガエルは1人で行くことにしました。

ヒキガエルは途中でカニとハイイログマに出会いました。

ハイイログマ、カニ：ヒキガエル、どこへ行くんだい？私たちはとてもお腹が空いているし、のども渴いているんだ。ヒキガエル：僕は今、天国に行って天の神に会って、すべての生き物を救うために雨を降らせてもらえるように頼もうとしているところなんだ。お米と水を持っているから、君たちも食べてくれ。

カニ：とってもおいしい！一緒に行かせてください。

ヒキガエル：じゃあ一緒に行こう！

植物が枯れ、動物が死んでいく様子は、とても悲しいものでした。彼らはとても長い道のりを経て、ついに天国にたどり着きました。

雷の神：ここで何をしているんだい？

ヒキガエル：私たちは地球上のすべての生き物を代表してきました！天の神とお話させてください。

雷の神：ここで待っててください。私が天の神にあなたのメッセージを伝えます。

雷の神は天の神と話し、ヒキガエル、ハイイログマ、カニを中に入れました。

天の神：何のためにここに来たんだい？ヒキガエル：天の神様、ここ数年、私たちの地球には水がなく、海水だけが残っています。いろいろな場所で干ばつが起こり、植物や動物が死に絶え、すべての生き物がどうやって生きていけばいいのかわからなくなっています。そこで今日、私は、すべての生き物を救うために雨を降らせてもらえるようお願いをしに来ました。

天の神：それは本当か？地球では干ばつが起きて、植物は枯れ、すべての生き物は、どのように生き残ることができるかわからないのか。そんなことは信じられない！100年前、私は緑の木々、広大な野原、そしてすべての生き物が調和して生きているのを見た。どうしてそんなことが起きているんだ？ヒキガエル：天の神様、私は本当のことを言っているのです。2000年以降、海面が上昇し、海水の侵入がますます問題になっています。畑は干上がり、動物や植物は水を利用することができず、渇きや暑さで命を落とす生き物も出てきています。天の神：どうしてこんなことになったんだ？理由を調べるためにために、誰かを送ろう。雷の神はどこだ？

雷の神：はい、天の神様。

天の神：地球で何が起きているか調べて、私に報告しなさい。

雷の神：わかりました、さっそく行ってきます！

しばらくすると...

雷の神：天の神様...（天の神の耳元でささや）

天の神：なんだと？本当にそんなことがあったのか？

雷の神：はい、そうです！

天の神：わかった。私に任せなさい。ヒキガエルはどこだ？

ヒキガエル：はい、天の神様。天の神：地球が温暖化し、自然災害や干ばつ、洪水が頻繁に起こるのはなぜか知っているか？それらはすべて、地球上の人間が引き起こしたことなのだ。ここに来て、これを見なさい。人間は木を切り、森を破壊し、ゴミを捨て、たくさんの有毒なガスを環境に放出し、プラスチックのゴミがそこらじゅうに捨てられている。これでは、健康的な生活環境を保てるわけがないだろう。

ヒキガエル：これでわかりました。これはすべて地球上の人間のせいです。しかし、すべての生き物の命を救うために、まずは雨を降らせてください。私たちが地球に戻ったら、環境を守る方法をみんなが理解し、知ることができるようにします。たくさんの木を植え、森を伐採せず、ゴミを分別し、プラスチックをきちんと再利用することを約束します。天の神：そう言ってくれて、私はとても嬉しいよ。すべての生き物を救うために雨を降らせよう。もう帰ってもいいが、約束通り環境を守ることを忘れないでくれ！

ヒキガエル：はい、約束します。私たちは今すぐ出発します、ありがとうございます！

天の神に別れを告げ、ヒキガエルたちは地上に戻ってきました。地上では、嬉しいことに、雨が降っています。そして、天の神との約束通り、ヒキガエルは環境保護についてみんなに伝えるため、あちこちに出かけていきました。ヒキガエルは澄んだ声で、こう言いました。

「環境を守るために、もっと木を植え、ゴミを分別し、適切に処理するように協力してください。プラスチックの袋やペットボトルの使用は控えてください。アースアワーに応じて、環境を守るために手を取り合ってください。」

そして、これは私たちが皆さんに伝えたいメッセージでもあるのです。

-終わり-





ひび割れた氷河

アート：グオ シヤ 11才*、
中国

“この絵では、地球温暖化（左上の灼熱の太陽）によって南極の氷が溶け、ペンギンが地球の裏側まで泳いで北極のホッキョクグマに会いに行く様子を描きました。ペンギンはホッキョクグマに助けてもらいたいのですが、ホッキョクグマが乗っている氷河も割れてしまっています。”

あなたにもできること

アヌラーダ、17才、インド

私は、オリッサ州バウド県にあるカリアパリ村から来ました。バウド県は干ばつに見舞われやすい地域で、オリッサ州の「干ばつ地域対策プログラム（DPAP）」の対象となる8地区のひとつです。今年、バウドは45℃にも達する熱波に見舞われました。干ばつは農業の生産性に影響を与え、灌漑（かんがい）用水が大量に不足する原因となります。また、雨季には洪水が発生し、農作物に被害を与えています。

私の父は農業を営んでいます。不規則な降雨のため、父は農業から運転手に転職しました。私の家族はヒンドゥー教の階級のなかでダリットのコミュニティに所属しています。カースト差別が根強く、車のオーナーはダリットに属する父を雇うことを拒み、父は仕方なく農業に戻りました。しかし、家族を養うには十分な収穫がなく、父は日雇い労働者として働くようになりました。これは、私たちだけの話ではありません。カンタマル・ブロックの人々は、不十分な降雨、低い生産性、ローンの発生などによる農業の苦しみのために、他の都市や町へ移住しています。

ほぼ毎年、私の村は洪水にみまわれます。2022年に起きた最近の洪水では、私たちの作物は壊滅的な被害を受けました。父は、私の学費を払うことができません。現在、私は12級（高校3年生）の勉強していますが、私の村では退学率が高いです。10代の男の子は就職のために町や都市に移住し、女の子は早くに結婚してしまいます。

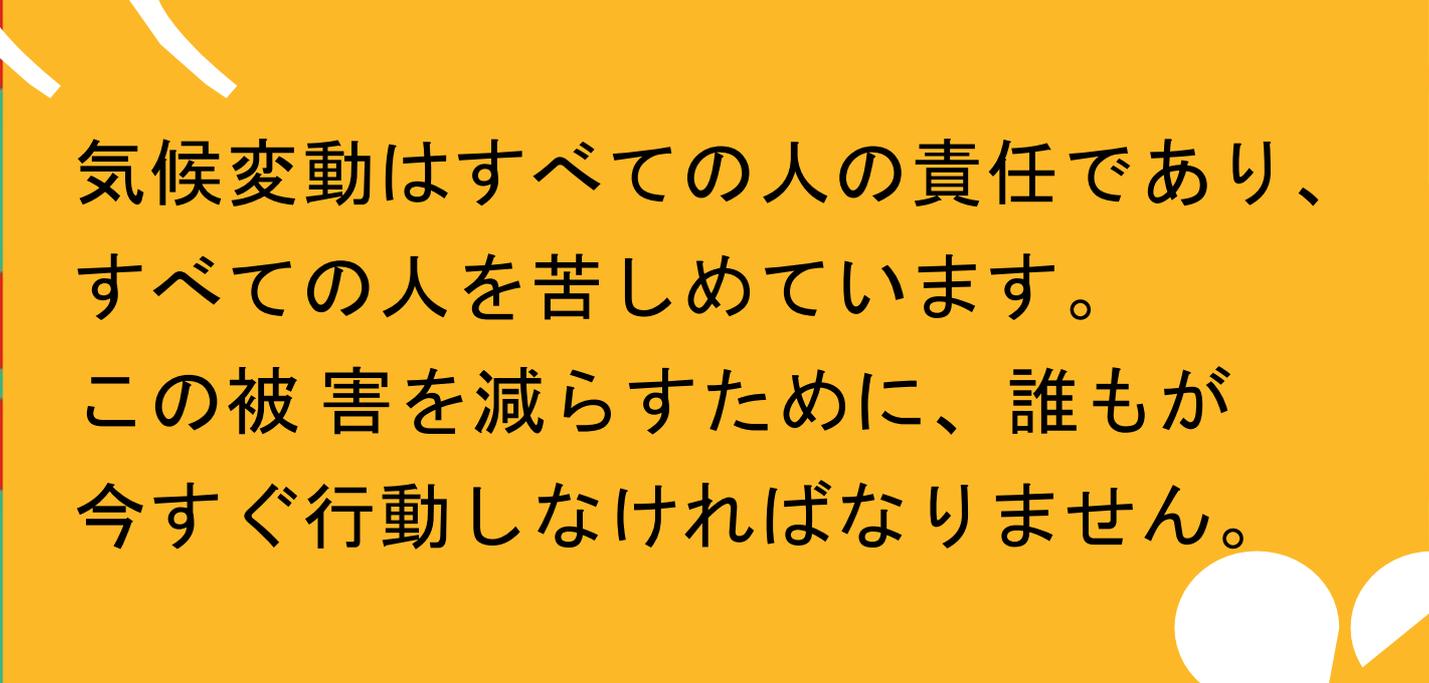
私は常々、自分のコミュニティのために何かしたいと思っていました。私の村では洪水が頻発しており、気候変動について学びたいと思い、複数の学校で植林活動を始めました。

また、子どもの権利について学び、コミュニティの子どもたちと一緒に活動するようになりました。私は、近隣の村や子どもに会い、子どもの権利について話をしています。緊急時には誰でも私に連絡できるように、私の連絡先を教えています。この取り組みにより、私は数件の児童婚を阻止し、セーブ・ザ・チルドレンのグローバルキャンペーン「#GenerationHope」の一環として、子ども啓発をリードする子どもたちのグループを作りました。私の目標は、コミュニティレベルの変化をもたらし、近隣の10の村で気候に関する意識向上ミーティングを開催することです。私の住むブロックのすべての学校で、植林活動を行いたいと考えています。

私は、啓発することが重要であり、私たち全員がその役割を担っていると考えています。行動には大きいも小さいもありません。

私たちは皆、変化をもたらすことができるのです。





気候変動はすべての人の責任であり、
すべての人を苦しめています。
この被害を減らすために、誰もが
今すぐ行動しなければなりません。



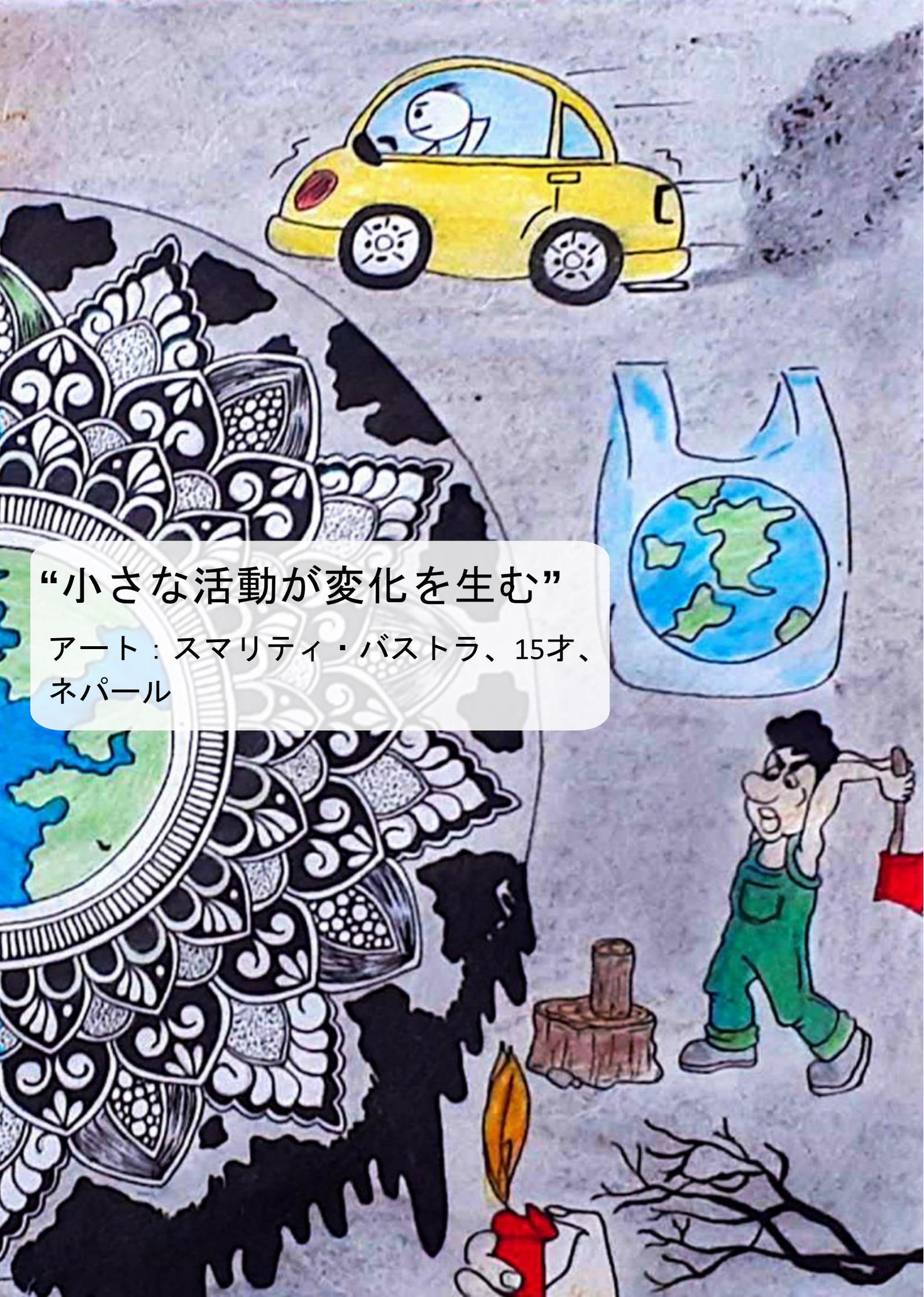
-ヨンウ、16才、韓国





EVERY DROP
HAS IT'S
VALUE





“小さな活動が変化を生む”

アート：スマリティ・バストラ、15才、
ネパール

リーダーにお願いしたいこと

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちの声に力を与え、気候変動対策におけるリーダーシップを促進する独自の役割を担っています。私たちは、子どもたち、特に気候変動の影響を不当に受けている、最も疎外された子どもたちの声や意見が、解決策の一部となり、世界や地域のリーダーたちの決定に影響を与えられるよう支援することを目的としています。

今年、世界のリーダーたちは、インドネシアで開催されるG20と、エジプトで開催されるCOPという2つの重要な国際会議で、子どもたちを最優先にする機会を得ました。私たちは、以下のことを求めます。

● 気候危機に緊急に取り組むこと。化石燃料を段階的に削減すると同時に、家庭を貧困から救うための措置を取るなどして、地球温暖化を1.5度までにおさえること。

● 子どもたちに投資すること。子どもたちと家族が気候の変化に適応し、困難な時期に対処できるよう、きちんとした子どもに対する教育・保健などの社会サービスや、セーフティネットに資金を提供すること。

● 子どもたちの声に耳を傾けること。現在、子どもたちに影響を与えている事柄、また将来影響を与える事柄について決定する際は、子どもたちが参加するための席を設けること。



子どもたちからの要求

人は自然や環境に優しくなるべきです。私たちは、燃料の代わりにグリーンエネルギーを使わなければなりません。私たちが自然を守れば、お返しに私たちも自然から守られるのです。

シャック ティークシャナディアス、
13才、スリランカ

政府や世界のリーダーたちは皆、変化をもたらすことができる立場にあります。世界のリーダーたちから、この問題を解決するんだという強い意志が必要だとしたら、それは今なのです。

イーシャ、17才、
パキスタン

私を含め、多くの子どもたちが環境保全への啓発を高めています。環境保全のためにできることは何でもする。大人たちは、私たちの声に耳を傾けてほしいです。

ラタナ、12才、カンボジア

私は各国政府に対し、子どもたちや社会的に弱い立場に置かれる人を保護するために、「子どものための包括的緊急プログラム（CEPC）」のような法律を、災害前、災害時、災害後の、それぞれの段階において実施することを求めます。

ジハード、17才、フィリピン

もし私がリーダーなら、すべての人にグリーン経済と持続可能なライフスタイルを推進し、すべての子どもたちに気候変動教育に投資することを最優先事項とします。

ヒマニ、16才、ネパール

大人たちやリーダーたちをお願いしたいのは、「どうか私たちの話を聞いてほしい」ということです。大人やリーダーからのサポートを通じて、私たちの未来を確かなものにし、美しい世界を作りたいのです。

ディヤ、16才、バングラデシュ



Climate action NOW!

Listen to us

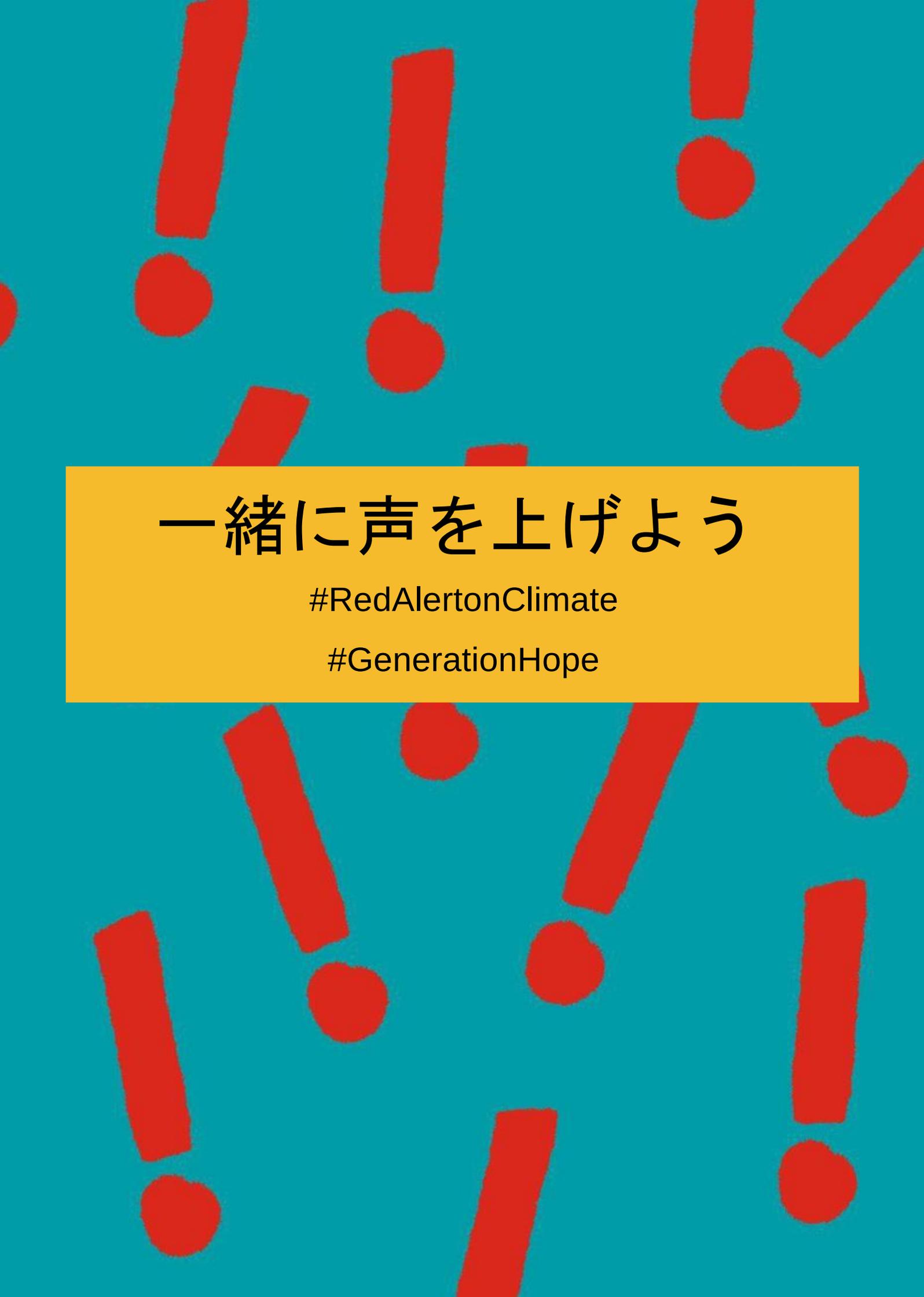
Say no to

SOS

Planet over profit

There's no planet B

It's time to act NOW!



一緒に声を上げよう

#RedAlertonClimate

#GenerationHope



Save the Children®

セーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル／
アジア地域事務所

(日本語訳) 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<https://www.savethechildren.net/>

<https://www.savechildren.or.jp/>